

# 神奈川の風



平成28年2月8日号

校長 吉江 明洋

## < 風に向かって立つ >

先日、とある新聞に、横浜南区出身の女優で歌手の<齋藤由貴>さんが、自分の子どもが受験期だった頃の母親の気持ちを書いているコラムが目についたので、一部を抜粋して原文のまま載せてみたいと思います。



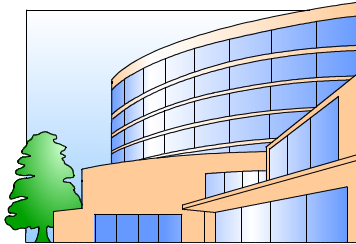
受験は家族も巻き込んでの一大イベントだが、気が気でない思いをしてじっとしてられない母親は多いのだろうと思う。

勝負の世界は厳しい。結果はハッキリと出る。「頑張ったんだから」とか言っても、負けは負け。「あと1点あれば」とか言ってもなかったものはなかったのである。こればかりはゴマカシようがない。けれど最近、こういう勝ち負けってつくづく大切ななァと思う。

現代人の生活は、こと日本は、人に快適に、楽に、優しくつくられている。でも、負けて、まずショックを受けて、時間を費やし、気持ちを切り替え、よく考え、改善し、鍛錬し、次の勝負に挑む。そして頑張っても、やっぱりダメな時がある。相手が手強かったり、ライバルが多かったり、いろんなケースがある。そこで七転び八起き。ようし、またやってみよう。そう思って起き上がるか否かが“その後の人生を退屈せずに盛り上げてゆく”ポイントなんだろうな、と思う。快適で、楽で、人に優しい環境。けれど、北風が吹いて頬にピシピシあたり、何くそ、と風に向かって立つ。何となく背筋が伸び、清々しいんじゃないのか?…と、今、自分に向かって言ってます(笑)。ハァ〜、子供の教育はキビシイ。今日もお母さん業、ガンバロ!!。

(余談ですが、齋藤は私が永田中に在職していた当時の生徒。悩みつつも母親として頑張っている様子が目に浮かび嬉しく思います。こんなことが教師の喜びの一つでしょうか)

## < 個別支援合同学芸会 >



1月29日(金)西公会堂で市中学校個別支援学級・特別支援学校合同学芸会が開催されました。本校の生徒も参加し、当日の最終プログラム23番で「神中ファミリー」との題材で、サザエさんをテーマに、劇ありダンスありの素敵な発表でした。

緊張しながらも、全員の息の合った演技に、会場からは大きな拍手が送られ、その一生懸命な姿を見ると私も大感激。

構想から準備そして練習と、これまでに仕上げるのは想像以上の苦労があったと思いますが、全員のステージ上の堂々とした姿をみていると、そんな大変さを観客には感じさせないすばらしい発表で、これからの成長が期待されるものでした。生徒の皆さんお疲れ様でした。そして素敵な時間をありがとう。